

あけまして おめでとうございます

昨年は大変お世話になりました
本年もどうぞよろしくお祈りします

さて今年は酉年です。

酉の市でおなじみの縁起熊手に代表されるように
「酉」は「取り込む」につながるとされ、
運を「かっ込む」、福を「はき込む」といって
開運招福・商売繁盛の年とも言われます。



そんな何でも取り込める酉年の初めに、
ウクライナ民話の詩「小さい白いにわとり」を
ご一緒にじっくり味わえればと思います。
忘れていた心、見て見ぬふりをしてきた心を
再度自分に取り込めればと願います。

「小さい白いにわとり」

小さい白いにわとりが、こむぎのたねをもってきて、みんなにむかって言いました。
だれがたねをまきますか。
ぶたはいやだと言いました。いぬもいやだと言いました。ねこもいやだと言いました。
小さい白いにわとりは、ひとりでたねをまきました。

小さい白いにわとりが、みんなにむかって言いました。
だれがむぎをかりますか。
ぶたはいやだと言いました。いぬもいやだと言いました。ねこもいやだと言いました。
小さい白いにわとりは、ひとりでむぎをかりました。

小さい白いにわとりが、みんなにむかって言いました。
だれがこなにひきますか。
ぶたはいやだと言いました。いぬもいやだと言いました。ねこもいやだと言いました。
小さい白いにわとりは、ひとりでこなにひきました。

小さい白いにわとりが、みんなにむかって言いました。
だれがこなをこねますか。
ぶたはいやだと言いました。いぬもいやだと言いました。ねこもいやだと言いました。
小さい白いにわとりは、ひとりでこなをこねました。

小さい白いにわとりが、みんなにむかって言いました。
だれがパンにやきますか。
ぶたはいやだと言いました。いぬもいやだと言いました。ねこもいやだと言いました。
小さい白いにわとりは、ひとりでパンをやきました。

小さい白いにわとりが、みんなにむかって言いました。
だれがパンをたべますか。
ぶたはたべると言いました。いぬもたべると言いました。ねこもたべると言いました。

身近なところで考えても、
世界ベースで考えても、
自分たちは 見も知らぬ たくさんの小さい白いにわとり
お礼を言うことなく 支えてもらっています。
恥を知り頭を下げる心が、ふつつつと湧いてきます。

大智寺だより

平成 29 年 陸月

Vol.81

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話:058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去の紙面をご覧いただけ
ます。ご活用ください。

12月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

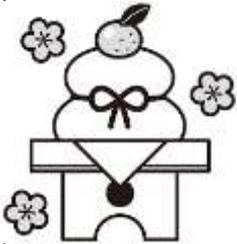
1月15日(日) だいはんにゃえ 大般若会

10:00～法要・11:00～うどん接待・12:00～お焚き上げ



毎年お檀家様にお配りしております新年の大般若札の御祈禱を1月15日に行います。

大般若会とは、「大般若経」六百巻を転読することによって、すべての苦厄を消しさり、五穀豊穡や国家安寧を祈念する大法要です。



この大般若会では、十六善神の掛け軸を本堂正面にかけます。この掛け軸には、遠くインドからお経を持ち帰る玄奘三蔵法師が描かれており、その周りに「般若守護の善神」である十六善神が描かれています。十六善神とは、四天王と十二神将と合わせた合計十六名の神々です。今回はその中でももっともポピュラーな帝釈天をご紹介します。

～ 帝釈天(たいしゃくてん)のお話 ～

帝釈天は、梵天と並び仏教の二大護法善神となった十二神将の一人です。

帝釈天は力を司る神といわれ、四天王を配下に従えています。

須弥山の頂上・忉利天の善見城(喜見城)に住んでいらっしゃいます。

さてどんなお方なのでしょう。



その昔、帝釈天が治めている忉利天には、阿修羅の一族が住んでいました。阿修羅には舍脂という娘がおり、いずれ帝釈天に嫁がせたいと思っていました。ところが、帝釈天は一目惚れした舍脂を前にいても立ってもいられなくなり、ついに力づくで宮殿へ連れ帰り、妻にしまいました。

正義の神である阿修羅は、そのことを知り激怒して帝釈天に戦いを挑みます。

戦いは常に帝釈天側が優勢でしたが、ある時、阿修羅の軍が優勢となり、帝釈天が後退していたところへアリの行列にさしかかり、アリの踏み殺してしまわないようにという慈悲心から帝釈天は軍を止めました。それを見た阿修羅は驚いて、帝釈天の計略があるかもしれないと疑念を抱き、撤退してしまいます。



阿修羅は確かに正義のために戦っていましたが、舍脂が帝釈天の正式な夫人となった後も、正義にこだわり続け、その結果、相手を許す心、善心を見失い妄執の悪となってしまい天界を追われ、人間界よりも下の修羅界へ追いやられることとなりました。

神様にしては少し素行が悪く感じられるような帝釈天ですが、飢えた老人のためにうさぎが火に飛び込む昔話「月のうさぎ」で動物たちの前に現れた老人も、そういえば帝釈天の化身でした。



またある時は、雪山童子の前に鬼の姿で現れ「諸行無常 是生滅法」と唱え、雪山童子が続きを聞かせてほしいと頼むと「聞かせてもよいが、俺は腹が減っている、人肉が食べたい。続きを聞かせたらすぐにお前を食べさせてくれ」といい、雪山童子の心を試したのも帝釈天でした。

大般若会では、本堂にかけられた十六善神の掛け軸の中に帝釈天を探してみるのも一興。

当日は、大般若経を命懸けで広めた玄奘法師の偉業に思いを馳せながら皆様のお幸せをご祈禱します。

どなた様もどうぞお気をつけておでかけください。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～

お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31ページより

③1



「 空の煙と消え失て 朝夕撫でし黒髪も」

お正月、百人一首を楽しむご家庭もおありのことと思います。

長からむ 心も知らず 黒髪の
乱れて今朝は ものをこそ思へ
(待賢門院堀河)

百人一首の中でもこの和歌は、「黒髪」の表現の美しさが際立って感じられます。

黒髪は、古来日本女性の美しさの象徴として扱われてきましたが、黒髪の乱れは心の乱れ、和歌の世界ではむしろその心の乱れを表現するため黒髪が使われてきました。さて乱れた黒髪（自分の心）を朝な夕な撫でて整えてきたのも、終わりを告げようとしています。黒髪はどんなに美しくてもタンパク質ですので、あっという間に灰となりますが、よくお手入れされ整えられた心は、どうなのでしょう。

「己こそ己の寄るべ、己を置いて誰に寄るべぞ。よく整えし己こそまこと得難き寄るべなり」(法句経) 最後まで頼りにできるのは自分の心、ただ一つ。

自分の心を整えるため、私たち禅宗では一日一度は静かに坐って、身体と呼吸と心を整えます。

今更のついに

皆様、新春の御祝いを申し上げます。お寺では比較的暖かな年始を迎えています。皆様はどんなお正月を過ごされていますか？

さて、お正月といえば人によって楽しみは色々ですが、私は万年青（おもと）を飾ると気持ちがお正月モードに切り替わります。青々とした厚い葉が年中枯れない万年青は、赤い実を包むように新葉、その外側に古葉が生えています。その姿は子を親が抱き、それを祖父母が見守るように見えるため子孫繁栄の縁起物とも言われています。お正月に飾りませんが、水盤の剣山に一葉一葉生けていると葉一枚一枚が語り掛けてきたり、語り返したり、独り楽しい時間を過ごせます。(笑)

本堂にお参りされるとお賽銭箱の脇の柱に「諸悪莫作 衆善奉行」と書かれた板が目につきます。「悪いことをしてはいけない。善いことをしなさい」というお釈迦様の教えですが、その昔この教えを聞いた白樂天は「そんなことなら三歳の童子でも知っている」と言いました。対する道林禪師が「たとえ三歳の童子が言い得ても、八十歳の老翁でも実践することは難しい」と答えたため、白樂天は礼拝し仏弟子になったという故事は有せです。

仏様の教えは単純明快。新年、幼く赤い実若葉、老いた葉と水盤の中に生けている、老若ともに「わかつていることを実践する」という修行の場に本日常々土俵入りといった姿に見えてくる、そんな万年青生けでした。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

とろとろ温まる優しいお味 豆乳茶碗蒸し

- ① 長いも50gをすりおろし、豆乳2カップ、薄口しょうゆ少々と合わせる。
- ② 里芋、ニンジン、お好みの具をひと口大に切り、火を通しておく。
- ③ 茶碗蒸しの器に具と豆乳液を混ぜ入れて、蒸し器で10分蒸す。
- ④ 三つ葉を飾りいれて出来上がり。

豪華にするなら、ユリ根を入れたり銀杏を入れてもおいしいです。大根やお豆腐など水が出るような具よりも、根菜類のような具のほうが豆乳の甘味を楽しめるように思います。一般的な卵の茶碗蒸しとは違い、液体がプリンのように固まることはありません。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

1月22日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

12月写経会 備忘録

一年あつという間、年の瀬の日曜日。何かと慌ただしい時期、ご参加いただきありがとうございました。今回は落語「猫の災難」を楽しみました。今年も一年間分 40,800円を義援金として12月29日に大本山 妙心寺へ送金させていただきました。被災地の方々のお力になれば幸いです。一年ありがとうございました。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人

第一話 「体は借り物 リバタさん」

時は、紀元前400年前後。
「うわー、すごい雨だ！」

旅に出ているリバタさんは、人家の見当たらない山中で集中豪雨にあってしまいました。とにかく雨宿りを、と小さな洞穴に入り休んでいると、赤鬼が人の死骸をかついで入ってきました。

続いてもう一匹 青鬼が入ってくるやいなや
この死骸の取り合いで二匹の鬼はケンカを始めました。

なかなか決着がつかないところ、一匹が隅っこに硬直しているリバタさんに気付き尋ねます。「この死骸は誰が持ってきたか証言しろ」

リバタさんが正直に、赤鬼が持ってきたと答えると、怒った青鬼に右腕を引き抜かれてしまいました。赤鬼が死骸の右腕をはずしてくっつけてくれました。

再び怒った青鬼に左腕、頭、胴体、足、と引き抜かれましたが、そのつど赤鬼が素早く死骸の左腕、頭、胴体、足をくっつけてくれました。

夜が明ける頃にはリバタさんの体は、死骸とすっかり入れ替わり、二匹の鬼は取り外したリバタさんの体をおいしそうに食べて出ていきました。気が狂いそうになったリバタさんが、お釈迦様のもとに駆け込み救いを求めるとお釈迦様曰く、「人の体は地、水、火、風、空五大からの借り物、一切無我」



ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。